

第3回

北区リレーションシップ協議会会議録

平成29年12月5日

第3回 北区リレーションシップ協議会

開催日時 平成29年12月5日(火)

開会 午後7時00分 ~ 閉会 午後8時13分

出席委員(15人)

- 座長 東洋大学ライフデザイン学部健康スポーツ学科 齊藤 恭平
副座長 北区町会自治会連合会 齋藤 邦彦
委員 北区スポーツ大使 高橋 勇市
委員 日本スポーツ振興センター西が丘管理部 岸 千秋
委員 北区商店街連合会 尾花 秀雄
委員 東京商工会議所 越野 充博
委員 東京北区観光協会 大前 孝太郎
委員 北区文化振興財団 気賀沢 進
委員 北区立小学校体育会 淵脇 泰夫
委員 北区立中学校体育会 高田 勝喜
委員 北区立小学校PTA連合会 兼松 リカ
委員 北区立中学校PTA連合会 西村 美奈子
委員 北区青少年委員会 清水 恒明
委員 北区政策経営部長 中嶋 稔
委員 北区地域振興部長 浅川 謙治

欠席委員(8人)

- 委員 北区スポーツ大使 上田 春佳
委員 北区スポーツ大使 石野 枝里子
委員 東京都障害者総合スポーツセンター 高山 浩久
委員 東京都北区体育協会 根本 貞義
委員 北区総合型地域スポーツクラブ れっど★しゃっふる 吉村 実花子
委員 北区スポーツ推進委員協議会 二村 正徳
委員 北区青少年地区委員会会長会 鈴木 将雄
委員 北区教育委員会事務局教育振興部長 田草川 昭夫

次 第

1 開 会

2 座長あいさつ

3 議 題

(1) 東京2020大会1000日前記念イベント等の実績報告について

(2) 広報・PR活動について

(3) 北区スポーツボランティアの取組状況について

(4) ROUTE2020 ~~〇~~トレセン通り関連事業について

(5) その他

4 今後のスケジュール

5 閉 会

午後7時00分開会

○齊藤座長

では、まだ来ていない方もいらっしゃるかもしれませんが、定刻になりましたので始めさせていただきますと思います。それでは、ただいまから第3回北区リレーションシップ協議会を始めたいと思います。

本日は、お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私は、この協議会の座長をしております東洋大学の齊藤と申します。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、この会の進行に関して説明をいたしたいと思いますが、本日の会議につきましては議事録作成のため、音声を録音させていただきます。よろしく願いいたします。

また、発言の際には事務局がマイクをお持ちしますので、そちらのほうをご使用ください。

また、会議の活動記録作成のために会議風景の写真を撮影させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

また、この会議は公開での開催というふうになっておりますので、傍聴を希望される方が会場に入っておりますので、あらかじめご了解いただければというふうに思ひます。よろしくどうぞお願ひいたします。

それでは、中身に入る前に、まずは本日のお手元の資料について事務局のほうからご説明願ひます。よろしくお願ひします。

○事務局（木暮主査）

それでは、資料の確認をさせていただきます。

机上に配付させていただきました。まず、一番上は、本協議会の次第となっております。1枚おめくりいただきますと、本日の資料一覧となっております。資料は右肩に囲みで資料番号を振ってございますが、まずは資料1、本協議会構成員名簿となっております。

ここで1点説明させていただきますが、左側のところに番号が振ってございます。19番、北区青少年地区委員会会長会、前回までは加藤委員が構成員となっておりますが、本日からは鈴木将雄委員と変わってございます。なお、本日は欠席との連絡をいただいております。

おめくりいただきまして、資料の2、本日の席次表でございます。

続いて資料の3、東京2020大会1000日前記念イベント等の実績報告、ホチキス留め、両面刷りで、最終ページは11ページとなっております。

続いて、資料の4、広報・PR活動、片面刷りのものでございます。

資料の5、北区スポーツボランティアの取組状況、両面刷りのものでございます。

資料の6、ROUTE2020トレセン通り関連事業、ホチキス留め、両面印刷3ページとなっております。

それとあわせて、ROUTE2020トレセン通り、こちらの周辺マップをつけさせていただきます。

それから、本日の添付資料といたしまして、先月行われました「アスリートふれあいフェスタ」当日配布したイベントチラシでございます。折り畳みのもの。

それから、もう一つ、両面刷りでカラー刷りしてあるもの、同時開催させていただきました飲食ブース、それから体力測定のコーナーのチラシでございます。

それから、今年10月20日、北区ニュースの特集号、オリパラ特集をさせていただいております。そちら1部。それと、今年度、東京家政大学と北区でコラボしてきた事業の紹介のチラシ。それから、東京2020大会そのもののガイドブック冊子をつけさせていただいております。

それから、紙ベースのもの、一番最後には、資料一覧には記載はないんですけども、国土交通省のほうで東京2020大会特別使用のナンバープレートのチラシ、配布依頼を受けていますのでご参考までに配らせていただきました。

それから、グッズでございます。今年度、啓発グッズに力を入れてまいりました。イベント等で活用しております。後ほど説明ございますが、大学生とコラボいたしましてクリアファイルを3種類作製してございます。それから、「トップアスリートのまち・北区」の周知ハンドタオル、それからボールペンを作っております。ご参考までに1つずつご用意させていただきました。

不足等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○齊藤座長

ありがとうございます。

それでは、2番目の座長挨拶というふうになってはいますが、改まって挨拶ということも無いと思いますけれども、今回の内容とはちょっと異なりますが、皆さんご存じのとおり、今年の4月から私ども東洋大学が赤羽に情報連携学部という学部を設置してございます。あと、情報が伝わっておりますでしょうか。実はオリンピックの翌年、もう一つ学部が赤羽に移転してまいります。何と私が学部長をやっております今の学部、ライフデザイン学

部が移転してまいりますので、また北区のお仲間ということで入れていただければと思いますが、よろしくどうぞお願いします。

この会はもとより、名前のとおり、2020年オリンピック・パラリンピックの気運を醸成するというのが目的でございますので、会議の中で活発な議論、意見交換等をしていただければというふうに存じます。よろしくどうぞお願いいたします。

では、早速議題のほうに入っております。まず（1）番目、東京2020大会1000日前記念イベント等の実績報告について、こちらのほう事務局よりお願いします。

○事務局（石丸課長）

皆さん、こんばんは。東京オリンピック・パラリンピック担当課長の石丸です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、資料3のほうをご覧ください。東京2020大会1000日前記念イベント等の実績報告でございます。

1番の開催の概要でございます。（1）の名称、東京2020大会1000日前記念北区スポーツ体験イベント Let's Sportsアスリートふれあいフェスタ～Tokyo 2020 1,000 days to GO～という名称になってございます。

（2）番の要旨でございます。区民の意識・関心が高まる記念日に絡めてスポーツイベントを実施し、東京2020大会開催のさらなる気運醸成を図るとともに、オリンピック・パラリンピック関連施設を区内に有する北区ならではのイベントとし、活気に満ちあふれた「トップアスリートのまち・北区」としての取組みを北区内外に発信していくということで、こちらは11ページにわたる資料なんですけれども、ちょっと盛りだくさんというところがございます。

（3）番、日程でございます。平成29年11月12日の日曜日に行われました。

（4）番の会場が、今年の2月に開設いたしました北区の赤羽体育館でございます。

（5）番、主催が北区、（6）番、協力ということで、こちら、お示しの株式会社等にご協力をいただいたところでございます。

(7) 番、参加料は無料ということでございます。

それでは、早速内容に入ります。2の実績でございます。

(1) 番の来場者数ということで、約1,100人の方がお見えになりました。うちオープニングのセレモニーに参加した方が約500人となっております。

(2) 番の実施内容、まず①番のオープニングセレモニーでございます。下の写真にございますように、浅葉さんという北区在住のギタリストのほか2名にまず事前のライブということで音楽の演奏から始めました。

続きまして、右側の写真、主催の挨拶ということで、私どもの浅川部長をはじめ、ご覧の方々にご挨拶をいただいてセレモニーが始まったところでございます。

それでは、2ページのほうをお開きください。

まず、トークショーといしまして、第一部、パラリンピアンということで、今日出席いただいています高橋勇市さんと多川知希さんのトークショーということをまず行いました。2番目のトークショーといしましては、第二部のオリンピックということで、萩原智子さんと桐生選手、この2人のトークショーということを行ったところでございます。桐生選手は100m 9秒台を日本人で初めて出したということで、今、非常に話題の桐生選手に登場していただいたというところでございます。

下に行きまして、記念品の贈呈式ということで、区内在住の伝統工芸保存会、江戸文字凧絵を作製しております志村さんから桐生選手への記念品の贈呈を行いました。それから、右側のほうが、東京家政大学の太鼓サークル暁という団体に和太鼓のパフォーマンスをいただいたところでございます。

続きまして、3ページのほうをお願いいたします。

これからはプログラムということで、体験型の教室が始まったところでございます。まず、メインアリーナで11時から12時に陸上教室ということで、小中学生を主にいたしまして陸上の教室を行ったところでございます。講師・ゲストといしましては、桐生選手をはじめ、高橋勇市さん、それから多川さん等々、こちらに記入の方々に来ていただいたと

ころでございます。

続きまして、4ページをお願いいたします。

こちらはバスケット教室でございます。オリンピックによるバスケット教室を行ったところでございます。その下の車いすバスケット教室ということで、こちらプロ車いすバスケット選手を招きまして、車いすのバスケット教室をしたところでございます。

続きまして、5ページにまいります。

こちらはシッティングバレー教室ということで、こちらパラリンピックの種目になっていますけれども、お尻をつけたままのバレーボールということで、こちら日本代表選手を中心に講師の方をお招きして実戦形式で行いました。

続きまして、バドミントン教室でございますが、こちらNTT東日本バドミントン部の選手、コーチの人たちと小中学生を中心にバドミントン教室を行いました。

次のページでございます。卓球教室、こちらは日本代表総監督の宮崎様を招きまして卓球教室を行ったところでございます。

そして、次のゴールボールでございます。こちらパラリンピックの種目でございますけれども、ゴールボールの男子日本代表の選手を招きまして、実際に実戦形式の教室を行ったところでございます。

それから、次の7ページでございます。サッカー・ブラインドサッカー教室ということで、サッカーの教室とブラインドサッカーの教室を並行して行ったということで、こちら日本代表選手等々、豪華なゲストで行ったところでございます。

次が射撃（デジタルライフル）の体験教室ということで、こちらはあまり体験することのないデジタルライフルの体験教室を行ったところでございます。

続きまして、8ページになります。

こちらは、今度はエクササイズスタジオのほうで、まずトライアス体操ということで、こちらのほうは、運動量は少ないんですけれども、頭と体を同時に使うというようなことで、何々しながら何々するというような簡単なエクササイズで、お子さんからお年寄りの

方まで楽しく体験していただきました。

それから、キックマンの食育講座ということで、食と運動というようなことをテーマにした食育講座を行ったところでございます。

さらに、ヨガ教室、それからフェンシング教室というところでございます。フェンシング教室につきましては、城北信用金庫の森岡選手、久良知選手、それとロンドンオリンピックの代表選手の千田選手をお招きして行ったところでございます。経験者向けと全く経験のない方との二部構成ということで、非常に多くの方に参加していただきました。

それから、次の9ページでございます。

こちらはゲストギャラリーというところで、赤羽体育館の1階のギャラリーなんですけれども、こちらで競技用の義足体験コーナーと、パネル写真撮影コーナーというところを各企業のご協力によって行ったところでございます。

続きまして、その下、2階の談話コーナーでオリンピック・パラリンピックの展示コーナーということで、リオオリンピック・パラリンピックに関する展示や北区ゆかりのアスリートを紹介するコーナーを設けました。また、来年の2月に始まります平昌の冬季オリンピック・パラリンピック応援ブースを設けまして、たくさんの方にメッセージをいただいたところでございます。こちら、写真のメッセージフラッグにつきましては、平昌大会出場を目指す北区ゆかりのアスリートであります鈴木選手と小池選手に贈呈する予定というふうになってございます。

ちなみに、私から見て右側の奥になりますけれども、鈴木選手と小池選手のパネルですか、こちらが展示してあるところでございます。

続きまして10ページ、こちらはお子さんが自由に遊べるように弓道場でストラックアウトというようなことを行ったり、志茂東公園では、こちら野外になりますけれども、オリンピック選手によるウォーキング教室を行ったところでございます。

それから、11ページになります。同時開催のプログラムといたしまして、まず(1)番がパートナーシップ協定の締結式というのを行ったところでございます。①番の目的で

ざいますが、北区とアスリートを雇用する北区内企業は、官民を超えたネットワークを構築し、スポーツを軸とした地域活力向上及び東京2020大会の気運醸成を推進していきます。

②番の出席者でございます。東京書籍株式会社、株式会社なとり、日本製紙総合開発株式会社、城北信用金庫、それと区長というところで、それぞれ代表の方に参加していただいたところでございます。

それから、(2)番のLet's Sports @FES+～金銀を食べてメダル獲得米祝い～という事で、飲食ブースを志茂東公園に設けました。先ほど添付資料のほうでもご案内申し上げたところでございますけれども、この元青年会議所メンバーによりますFES+というメンバーにお願いいたしまして、飲食のブースと体力測定のブースを設けたところがございます。非常に多くの方が参加していただきまして盛況でございました。

以上が東京2020大会1000日前記念イベントの実績報告となります。よろしくお願いたします。

○齊藤座長

ご説明ありがとうございます。

我が東洋大学の桐生君、お手伝いすることができてよかったなというところでしょうか。

では、ただいまの説明に対しましてご意見、もしくはご質問、その他ございましたら頂戴したいと思いますのですが、いかがでしょうか。

来場者数も1,000名以上ということで、かなり大きな催し物になったかなというふうに感じておりますが、いかがでしょうか。

特にないということであれば、続いての議題に移りますが、よろしいですか。

では、ないようですので、次の議題のほうに移ってまいりたいというふうに思います。

続いては(2)番の議題に移りますが、広報・PR活動について、こちらのほうも事務局のほうからご説明願います。

○事務局（石丸課長）

それでは、説明いたします。資料4、広報・PR活動という1枚の資料をご覧ください。

まず、1番が東京2020大会プロジェクトチームの発足というところでございます。東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて開催気運の醸成を図るとともに、「トップアスリートのまち・北区」を区内外にPRしていくため、平成29年6月にプロジェクトチーム（愛称名：＃ときおば）を発足いたしました。

（1）番のメンバーでございます。東京家政大学及び東洋大学の学生、計6名程度というところでございます。このチームの「＃ときおば」という名称も、このメンバーの中で決めていただきました。東京・北区・オリンピック・パラリンピックの頭文字をとって、平仮名で日本文化を表現し、「＃ときおば」としまして、この前のハッシュタグというんですか、これが区内外に発信していくというような、そんなメッセージを込めたような名称ということでございます。

（2）番の活動内容でございます。①番、北区のオリンピック・パラリンピック事業に関する広報活動。②番、イベントの企画。③番、その他オリンピック・パラリンピックに関する取り組みを進めてまいります。

（3）番、活動期間が平成33年3月末まで。これは平成32年度末というところを一応設定した活動期間でございます。

2番、北区ニュース「オリンピック・パラリンピック特集号」の発行。こちらはお配りした資料に入っております、こちらの1面が漫画になっています北区ニュースの特集号でございます。

こちらは、東京2020大会開催の1000日前を記念した北区ニュース特集号を、＃ときおばメンバーが作成いたしました。

（1）番の発行日、今年の10月20日号といたしまして、（2）番の配布数が、区内全戸ほか約20万部。

（3）番の主な内容といたしましては、①番、トップアスリートのまち・北区を紹介す

る漫画、それと中の面を開いていただきますと、②番の北区スポーツ大使及びゆかりのアスリートへのインタビュー。それと、4面になりますが③番、1000日前イベントの開催の周知ということでございます。インタビューについては、あくまでも要約のものしかこちらに掲載できませんでしたものですから、詳細の内容については区のホームページで掲載しているところでございます。

3番目のロールアップバナースタンドの作製ということでございます。北区スポーツ大使や北区のアスリートを広く発信するため、アスリートを紹介する表示物を作製したということでございます。

11名分作製いたしました。今日この会場に掲示してありますのが、先ほど説明いたしました私から見て右奥になりますけれども、平昌の有力候補であります区内ゆかりのアスリート、鈴木選手と小池選手のロールアップバナースタンド、私から見て向かって左の奥には、今の北区のスポーツ大使、高橋勇市さん、上田春佳さん、石野枝里子さんのバナースタンドが立っております。これ以外に、あと6枚、北区ゆかりの選手ということで、こちらは北区ニュース10月20日号の3面に出ている方を中心としたバナースタンドをつくったところでございます。

そこで、皆さんへのお願いなんですけれども、このバナースタンドをせっかく作りましたけれども、私どもの倉庫に眠らせておくのは非常にもったいないので、今日も掲出させていただいておりますけれども、いろんなイベントで掲出していきたいなというふうに思っております。ぜひ皆様方のイベントでもこういったものを掲出できるスペースですか、そういった機会がありましたらお声をかけていただければというふうに思っております。

ただ、見てお分かりのとおり、非常にきゃしゃといたしますか、本当にロールスクリーンなものですから、なかなか風が吹いたりすると倒れちゃうので、屋外の使用は難しいと思います。また、雨が降ったり砂ぼこりで汚れたりということを考えますと、室内限定になっちゃうのかなと思いますけれども、ぜひ北区ゆかりのアスリート、スポーツ大使を応援

する何か機会がございましたら、どうぞ皆様方のイベントでご使用いただければなというふうに思っております。

資料に戻ります。4番目の「トップアスリーのまち・北区」啓発グッズの作製というところがございます。こちらも本日、皆様のお手元に配付してございますけれども、(1)番が手提げのクリアファイルと、こちらも東京家政大学の学生さんのデザインによりまして3種類のクリアファイルを作製したところがございます。

(2)番のミニタオル、こちらは、平成28年度にデザインいたしました赤羽駅西口と十条駅の北口に設置してあります北区のPR広告塔、こちらをモチーフにして作製したものでございます。あと、3色のボールペン、シャープペンシルにもなっているというようなものを作製して、1000日目のイベントで配布したというところがございます。

以上、広報・PR活動についてのご説明でございます。よろしく願いいたします。

○齊藤座長

ありがとうございます。

ただいま事務局より広報・PR活動についてということでご説明いただきましたが、どうでしょうか、質問、特にこのことに関してご意見、その他ある方もいらっしゃると思いますので伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

北区のニュースのほうも、いわゆる行政が作るような冊子ではないような、やはり学生が作るとういうようなところで、載っていますかね、内容になっていると思いますし、実は私、数日前にこちらのクリアファイルもすぐいただいて、ゼミの学生に見せましたら、かなり評判はいいです。ただ、作ったものはやはり配布したりとか、展示したりとかということが必要だと思いますので、先ほど事務局からお願いがありましたが、皆様のご協力でいろんなところに配布、展示その他、お願いしたいなというところだと思いますが、さていかがでしょうか。

○事務局（木暮主査）

事務局からも補足1点、すみません、補足させていただきます。

今年度は、まず北区ゆかりのアスリート、北区の人的な財産というふうを考えまして、そこを中心にPRしていこうということで進めてございます。そのPRの仕方につきましても、なかなか行政だけですとあまり上手ではない、そういったところもありましたので、逆に大学生の柔軟な発想、そういったものをどんどん取入れながらやっっていこう、一緒にやっっていこうというような形で、こういった啓発グッズですとか、それから広報紙を進めてきてきたところでございます。

ただ、私どもの紙面、東京2020、2020年までございます。まだ2年あります。その中で継続的に北区の予算、「トップアスリートのまち・北区」というところ、それから、東京大会そのものに興味・関心をもっともっと区民の皆さんに高めてもらいたいというようなところで、PR活動をどんどん力を入れていこうかなというふうに思っています。今年度は人的な財産にフォーカスを当てて進めてございましたけれども、来年度はもうちょっと幅を広げて地域の方々、商工関係の団体の方々、観光面、そういったところもどんどんご相談させていただきながら来年度も取組んでまいりたいなというふうに考えてございます。

以上でございます。

○齊藤座長

ただいま補足がございましたが、今の内容を含めてどうでしょうか。

特にございませんか。よろしいですか。

特にないということでしたら、スムーズに次に行きますが、よろしいですか。

では、次の議題に移ってまいりたいと思います。

続いては（3）番になりますが、（3）番は、北区スポーツボランティアの取組状況について、こちら事務所のほうより説明をお願いいたします。

○事務局（石丸課長）

それでは、資料5をご覧ください。両面コピーの資料になってございます。

北区スポーツボランティアの取組状況、1番の概要でございます。（1）番の目的、スポーツボランティア制度を創設し、スポーツ現場のボランティア確保・育成に取り組むとともに、ボランティアニーズの受け皿として機能させ、スポーツを通じた市民活動・社会貢献活動の活性化を図る。また、区のスポーツ現場を通じて、2020年東京大会におけるボランティアの担い手育成につなげ、2020年東京大会後もボランティア文化を定着させるというものでございます。

このボランティアにつきましては、私どものスポーツボランティアの事業とともに、生涯学習・学校地域連携課でもいろいろ文化ですとか語学ですとか、そういったボランティアをお願いしているところなんですけれども、私どものボランティアにつきましては、スポーツボランティアというところを目指しているところでございます。

（2）番の協力といたしましては、NPO・ボランティアぷらざの協力を得ているところでございます。

（3）番の登録要件というところでございますけれども、①番、区内在住・在勤・在学の満15歳以上の方ということで、高校生も含めてということになってございます。

②番、区内に本拠地を置くスポーツ・レクリエーション団体等の構成員で満15歳以上の方。

③番、北区と包括協定の進んでいる各大学生、東京家政大学、東洋大学、帝京大学、女子栄養大学、東京成徳学園、お茶の水女子大学、こういった学生さんも登録していただけるという形になってございます。

（4）番の登録者数でございますけれども、現在79名という登録をいただいているところでございます。

2番目が、養成講座というところでございます。ボランティアに関する知識やスキル等を向上させるため、年4回程度の養成講座を実施する予定となっております。

（1）番で、平成29年度の実績でございます。まず、第1回の養成講座「スポーツボランティアとは」というところで、5月21日に行ったところでございます。講義「スポーツ

ボランティアの役割と楽しみ方」というところで、スペシャルオリンピックス日本の園部さやか様にご講義をいただきました。その後、パネルディスカッションということで、「スポーツボランティアの必要性～東京2020大会を見据えて～」というところで、今日の座長をしていただいています齊藤教授をコーディネーターといたしまして、パネリストにスポーツ大使の石野さん、それから上田さん、それとこちら、先ほど講義で講師をいただきました園部さんを交えてパネルディスカッションを行ったところでございます。

参加者数は84名を数えたところでございます。

裏面のほうを、お願いいたします。第2回の講座でございます。「ボランティア活動の基本『活動者から体験談を聞こう！』」ということで8月26日に行いました。①番の講義といたしましては、ボランティア活動の特徴やマナーなどの基本について学ぶということで、NPO・ボランティアぷらざの職員さんの講師を招きまして講義を行ったところでございます。

②番の講演「ボランティア活動者の体験談を伺う」ということで、ゲストといたしまして中島誠之さん、それから村上広幸さん、四分一幸子さん、それぞれお示しのとおりの方から実際のボランティアの現場、活動者の体験談というところで、いろいろ楽しみもあるけれども大変なところもあるというようなところの具体的なお話を伺ったところでございます。参加者数は58名でございました。

第3回目が「イベントの安全管理運営と救急救命」ということで9月30日に行いました。講師は、NPO法人日本ファーストエイドソサエティの岡野谷さんを招きまして、こちらは講義と、あと実践ということでAEDの使い方ですとか、そういったものの実践の講座を行いました。参加者数45名、こちらは多少広い場所が必要なものですからちょっと定員も少な目に設定したということもございます。

そして、第4回でございますけれども、こちらが先週の日曜日になりますけれども、12月3日に「視覚障害者スポーツの現状等」ということで、実技を中心とした講座を行いました。こちらは障害者週間記念講演会との合同開催というところで、講師は東京都障害者

総合スポーツセンターの職員さん、それとゲストといたしましては、北区在住のパラリンピアンでございます尾崎峰穂さんを招きまして、参加者数50名で行ったところでございます。こちらは実際に視覚障害の方を、障害物を避けて歩く実際の訓練ですとか、あとはブラインドサッカーのボールを使いまして、実際に体験をしてというようなことを行ったところでございます。

(2) 番のその他というところでございます。文京区、台東区のスポーツボランティア制度とも連携し、各区の養成講座も受けられるという制度整備を推進していこうということで、この近隣区で同じようなスポーツボランティア制度がある区と連携して今後とも輪を広げていければというふうに思っております。

ここまでが養成講座のご説明になりますけれども、今度はこちら、実際にこの講座を受けていただいた方の活動状況ということで3番の活動状況でございます。

まず、(1) 番の北区主催事業といたしまして、私どもの主催事業といたしまして6事業、お手伝いいただいております。先ほど冒頭に説明いたしました1000日前イベントですとか、あと、トップアスリートの直伝教室等々の事業でご協力をいただいております。

(2) 番の私ども以外の北区の主催事業というところでは2事業協力いただきまして、水辺ウォーク、それから、来たKITAオリパラプロジェクト、水辺ウォークは、実際には中止になっちゃったんですけれども、水辺ウォークと、来たKITAオリパラプロジェクト、こちらは先ほど説明しました生涯学習・学校地域連携課のほうの事業でございますけれども、こちらの主催事業のほうにもご協力いただいております。

(3) 番の外部団体主催事業ということで、3事業行ったところでございます。こちらは体育の日に毎年行われています、NTCを中心に行っていますスポーツ祭り2017、それと今度お台場で開かれる予定になっていますホワイトトリボンランというような、こういうランニングのイベント、こんなようなところにもご協力いただいたところでございます。

今後とも養成講座を実施して登録者数を増やしていくとともに、さまざまな場所で活動の場を広げまして、スポーツボランティアの制度を普及させていきたいなというふうに思

っています。後ほど今後予定のところでもお話ししますが、いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの実行委員会のほうでも、いわゆるオリンピック・パラリンピックの都市ボランティアと大会ボランティアの募集も始まろうかなというところで、来年度以降はこのボランティアの活動というのも、もっともっと注目されるのではないかなというふうに思っておりますので、私どもといたしましてもこの制度の充実を図っていききたいというふうに思っているところでございます。

以上、説明させていただきました。よろしくお願いいたします。

○齊藤座長

ありがとうございました。

ただいま、スポーツボランティアの取組状況に関してご説明願いましたが、いかがでしょうか。ご意見、質問等ございますでしょうか。

○岸委員

日本スポーツ振興センターの岸でございます。

意見、質問ではございません。今しがた、ご説明いただきました活動状況の（３）スポーツ祭りは、私どもの主催事業でございます。ボランティアいただきましたおかげもございまして、過去最高の入場者数で、活況で終わることができましたので、この場をお借りさせていただいて改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

ボランティア活動は非常に重要だと思っております。スポーツのイベントを行う主催者にとっては、1番は予算面のやりくりが非常にシビアな問題になっております。円滑に行うためには、また安全に行うためにも、かなり人手をかけながらあらゆる面でのサポートが必要な状況だと思っております。そういった中でボランティアに来ていただいて一緒に盛り上げていただく、振興のために一緒に協働していただくというのは非常に主催者にとってありがたいこととございますので、引き続き来年もございまして、よろしくお願いいたします。

以上です。

○齊藤座長

ありがとうございました。

最近ボランティアも、ボランティアする者の質が求められる時代です。そういう意味ではこの北区の取組み、いろんな講習会を受けて教育を受けたボランティアが育っていくということ、質的にもいいかなというふうに考えます。

さて、いかがでしょうか。

今、事務局のほうからオリンピック・パラリンピックに向けて、いわゆる大会ボランティアと都市ボランティアという話もありましたが、大会ボランティアのほうはむしろなるほうが大変だというような、東京2020組織委員会の計算では9万人なんていう話をされていて、それに対して応募するのが30万人ぐらいだという、そういう噂も聞いておりますが、今回はそれとは違った、いわゆる北区独自のボランティアということで、どちらかというとオリンピックの気運を高めるスポーツの振興のためのボランティアというような、そういうイメージかと思えます。

これは、北区さんはもともとスポーツ推進委員の制度をお持ちですけれども、その辺とのすみ分けというのはどのように考えていらっしゃいますかね。

○事務局（木暮主査）

スポーツ推進委員でございますけれども、スポーツ推進委員は非常勤の公務員としての区内のスポーツ振興のためのという職務を持ってございます。それなので、北区で創設いたしましたスポーツボランティアの制度の枠外となりますので、登録はできないというふうになっております。

ただ、実際に区内のスポーツ現場でここはボランティアだけとか、スポーツ推進委員だけとか、そういうすみ分けを行うのではなくて、行政も、スポーツ推進委員も、ボランティアも、一緒に作り上げていくというのが必要なのかなというふうに考えてございます。

それですので、登録制度の枠外でございますが、連携をとって一緒にやっていくと。それから、そういった活動が2020年で終わることなく、どんどん市民活動として根づいてい

ってほしい、2020年以降も根づいていく、そういうところを目指してございます。

○齊藤座長

ありがとうございます。

オリンピックまではスポーツの雰囲気は否でも応でも盛り上がっていくんですけども、そこから先の、むしろトーンダウンしていくほうが非常に心配で、そういう意味ではこのボランティアが貴重な人材になっていくのかなというふうに考えておりますし、今日この協議会にお見えの方々の中にも、例えばPTAとか学校のほうでいろいろとスポーツの行事等もあろうかと思いますので、そういう部分でぜひご活用いただくような形のほうがよろしいかなというふうには個人的に考えます。

いかがでしょうか。

特段なければ、この議題に関してはこれまでということで、次の議題に移りたいと思います。

それでは（４）番目、ROUTE2020トレセン通り関連事業についてということで、事務局のほうからご説明願います。

○事務局（石丸課長）

それでは、説明させていただきます。

資料6のほうをお願いいたします。

ROUTE2020、座長、申し訳ありません。こちらの場合には「ニーマルニーマル」と呼ばさせていただきます。非常にわかりにくくて申し訳ないんですけども、東京大会の前についたときには「ニーゼロニーゼロ」と読めということは組織委員会からのほうの指示で来ておりまして、その組織委員会の指示よりも前に私ども、このROUTE名を決めたときに「ルートニーマルニーマル」とやわらかく発音しようというふうに決めましたものですから、ちょっと組織委員会の大会名称と異なっておるんですけども、今、独自で使い分けをし

ておるといような状況でございます。

それでは、本題に入ります。資料6の資料をご覧ください。

「ROUTE2020トレセン通り」関連事業でございます。ちょっと過去に遡って一通り今までの経過も踏まえてご説明申し上げたいと思っております。

1番の事業目的でございます。日本トップレベル競技者のトレーニング施設のある西が丘からJR赤羽駅及びJR十条駅に通じる道路に愛称名を設定し、この道路がオリンピック・パラリンピックを想起させる「トップアスリーのまち・北区」のシンボルとしてふさわしい景観となるように整備し、区の魅力として発信していくということが目標でございます。

2番の取組みの実績でございます。まず(1)番が、この道路愛称名の設定ということで、愛称名がROUTE2020トレセン通りと名付けました。

経緯といたしましては、少し昔の話になりますけれども、平成26年3月に愛称名の公募を行いました。0-KISS、それからU-KISS、これだけ書いてあると何のことだかわかりませんが、北区若手職員の集まりで、政策分野について検討するというような会議体ございまして、北区の若手の職員の政策を協議する会議体、それとこちら、ROUTE2020トレセン通りに隣接しております赤羽商業高校等に募集をかけたというところでございます。5月に庁内の検討会において計78提案の中から3案を選出し、JOCエリートアカデミー生へアンケートを実施いたしました。27年1月に東京2020大会の2020日前という日を機に、こちらの愛称名に決定したというところでございます。

(2)番のPR広告塔でございます。ルートの起点・終点となる駅前に「トップアスリーのまち・北区」をPRする広告塔を設置いたしました。平成26年度に赤羽駅西口と十条駅北口に設置いたしまして、平成28年度にデザインの更新を行いました。東京家政大学の学生さんからのプレゼンを公募したところでございます。

今、お手元にお配りのハンドタオルがこの看板をイメージしたハンドタオルというところでございます。この資料の左側がオリ、右側がパラというようなイメージでつくったと

ころでございます。

(3) 番の公共施設の総合案内サインでございます。「トップアスリートのまち・北区」をテーマにデザインした公共施設の総合案内板を設置したところでございます。こちらは平成26年に十条駅北口、27年度に赤羽駅西口に設置してございます。

(4) 番の愛称サインでございます。愛称名を浸透及び定着させ、通り周辺区域をトップアスリートのまちの拠点として全国に発信していくため、愛称名のシンボルマーク（ロゴデザイン）を用いた標識を通り沿いに設置し、PRイベントを実施いたしました。この右側の写真というか、絵のとおりでございますね。

平成27年度に10カ所設置いたしまして、PRイベントを9月13日の日曜日に行いました。参加者数360人に集まっていたところでございます。

2ページをご覧ください。(5) 番のアスリートの手形モニュメントでございます。

味の素ナショナルトレーニングセンター及びROUTE2020トレセン通りに隣接いたします区立稲付西山公園に北区ゆかりのアスリートの手形を添架したモニュメントを設置いたしました。除幕セレモニーは平成29年4月22日土曜日に行ったところでございます。本日出席の高橋勇市さんにも出席いただいたところでございます。

手形の一覧ということで、まず、今年の4月につけた手形がこちらに記載してあります6人の方でございます。上田春佳さん、高橋勇市さん、中村航輔さん、長谷川涼香さん、池愛里さん、多川知希さん。この6名の手形が現在、設置してあるというところでございます。

平成29年度末追加予定ということで、こちら今、作業中でございますけれども、今年度末までには追加したいなということで、この4月に新しくスポーツ大使になりました石野枝里子さん、それとフェンシングの千田さん、それと卓球で今、一躍有名になりました平野美宇さん、それとパラリンピックのレジェンドであります尾崎峰穂さん、そのほか、平昌2018冬季大会出場のアスリートの手形も設置できればなということで予定しているところでございます。

3番目が、3ページになります。今後の整備予定というところで、ROUTE2020トレセン通りのデコレーション整備というところがございます。

(1) 番の内容といたしまして、まずこのROUTE2020トレセン通りの歩道の植栽上に、まず①番目としまして競技紹介看板ということで、味の素ナショナルトレーニングセンターで実施されている競技を中心にいたしまして、競技の紹介が記載された看板を設置し、さまざまなオリンピック・パラリンピック種目の練習が区内で行われているということを周知していきたいなというふうに今、考えてございます。

②番の歩道の照明というところで、競技紹介看板の両脇、両端及び上部に照明を設置いたしまして競技紹介看板を照らすとともに、トレセン通りの景観を演出してまいります。

③番はフラッグというところで、東京2020大会を想起させるようなデザインのフラッグを設置し、さらなる気運醸成を図ります。フラッグにつきましては、街灯につける予定でございます。

(2) 番の今後の予定でございます。平成30年1月、来年の1月から設計が始まりまして、31年の4月に工事開始の予定というところになってございます。

最後、4番、その他でございますけれども、このトレセン通りの東京都施工の工事の関係でございます。NTC周辺の歩道整備ということで、道路の整備にあわせまして連続性かつイメージアップを強調した景観整備が進められているということで、こちらは整備の内容といたしましては、インターロッキング舗装、それと横断抑止柵（ガードパイプ）、これの景観色化、それと視覚障害者誘導ブロックの敷設というようなところを東京都の施工で進めているところでございます。

ROUTE2020トレセン通りの関連事業については以上でございます。よろしく願いいたします。

○齊藤座長

ありがとうございました。

ただいまROUTE2020トレセン通りの関連事業についてご説明いただきました。質問、ご

意見、その他ございますでしょうか。

○兼松委員

小学校PTA連合会の兼松です。

トレセン通りの近所に自宅がありますので、このトップアスリートの方、オリンピックの方なんかは多分タクシーとかで乗りつけてしまうと思うんですけども、その養成所というか、通っていらっしゃる方とかは、施設に行くのにバスを使っているんですよね。今、トレセン通りのところに関連するので、ちょっと気づいたことなんですけれども、オリンピックとかパラリンピックとか出ていらっしゃる方、これから出る若手の方とか通っていらっしゃるって、センターからバス停が、ちょっと距離があるんですけども、そこに屋根もないようなバス停だったりとかするんですね。若い元気な選手なので、大きな荷物を持っても全然大丈夫なんだと思うんですけども、何か北区がアスリートのまちと提言しているのだから、北区のバスが出たりとかしないのかな、なんて思いながらバスに乗っていたりするんです。

民間のバスの会社との兼ね合いもあるのかなと思うんですけども、せめてバス停に屋根があつたりしてもいいのかなとか、バス停がもうちょっと施設寄りになったりしたらいいのかな、なんて一般庶民の感覚で思っていることをちょっと発言させていただきました。

せっかくトレセン通りということで看板設置したりとか、あとは自転車が通れるような整備とかされているんですね。そこだけすごく整備されていて、きっと力を入れているんだなと感ずるので、ぜひそんなことで選手の皆さんのこれからの何か力になれたりしたら、少しはいいのかなと思っています。よろしくお願いします。

○事務局（石丸課長）

大変貴重なご意見、ありがとうございました。

王子駅と赤羽駅西口を結んでいるバスなんですけれども、ご承知のとおり、赤羽駅から王子駅に向かうバスは、以前は西が丘交番のところを通過して、細い道をずっと通って姥ヶ橋のわきに出ていたんですけども、あれがトレセン通りに、大通りのほうに移ったんで

すよね。バス停もまた新しくできたものですから、確かにそういった視点で見ていただいて非常にありがたいとは思っています。

今、思いついたんですけれども、おっしゃるとおり屋根をつけるですとか、そういったことも大変大切だと思うんですけれども、逆にそれを何かラッピングとかして何か宣伝とかに使えたらいいのかなというのは、今ちょっと思いつきで思いました。

バス停のことについては、私どももあまり考えになかったものですから、今、貴重なご意見をいただきましたので、そういったことを含めて前向きに検討していければなというふうに思っています。

ただ、今、兼松委員がおっしゃったように、相手方が民間の事業者なものですから、なかなか100%私どものほうで何をするというのはちょっとお約束ができかねますけれども、こちら、NTCをアピールしてトレセン通りを周知するに当たってバス停をどうしていくか、また、アスリートのためにどうしていくかということは私どものほうでも検討させていただければと思います。どうもありがとうございました。

○齊藤座長

アスリートに対して思いやりのあるご意見、ありがとうございます。

あそこは、こんなこと言ったらあれですけれども、赤羽台に私どもの学部が移ってまいりますと、実は健康スポーツ学科という学科がありまして、本当にアスリートがあそこをうろうろするようになります。基本的には赤羽台の西側から、トレセンの隣に実は、東洋大学のアスリートタウンというのがありまして、そことの間を学生が往復するようになりますので、かなりある意味、本当のアスリート通りになるかなという感じもいたしますけれどもね。

そのほかいかがでしょうか。よろしいですか。

○尾花委員

北区商店街連合会の尾花と申します。

フラッグの件なんですけれども、せっかく商店街にフラッグをつけられるところがある

んですけども、どのような協力があるか、どのような形でやっていいのかという部分が全然わかっていないし、それもできるかできないかもわかっていないので、もし商店街のブラッグ、せっかくつければいいところありますので、それをどうにか動かしていきたいという場合はどうしたらよろしいでしょうか。

○齊藤座長

事務局、いかがでしょうか。今、回答できる内容ですか。

○事務局（木暮主査）

具体的にブラッグをどういうエリアに、どのくらいの間隔でつけていくかというのが、来年から始まっていきます設計の中で、どんどん検討していきたいなというふうに思っています。特に、このトレセン通りでございますと、十条のところでは、いちよう通り商店会ですとか、確かにお店のところにブラッグが掲揚できるポールがあるなというふうに見ておるところでございます。

そういったところと、どのように連携できるかといったところを、設計を進めながら一緒にご相談させていただこうかなと思っておりますので、まだ今の段階でこうだ、というのはないものですから、申し訳ございません。

○事務局（石丸課長）

すみません、補足します。

今、私どもが計画しているのは、あくまでも都道についております東京都が設置した街灯に金具をつけて、ブラッグを掲示しようというふうに考えてございますので、今、係長の木暮がご説明いたしましたとおり、商店街独自で街灯ですとかブラッグを設置する箇所もございますので、そことどういふふう調整していくかというのは今後、検討させていただければというふうに思っております。

○齊藤座長

よろしいですか。

ぜひ連携をとっていただきながら、お互いいいイメージになるように、いずれにしても設置していただければなというふうに思います。

さて、ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

では、特になければ、（４）番は以上にしたいと思います。

それでは、続いては（５）番のその他ということになりますが、事務局のほうで何か用意してあるものはございますでしょうか。

特段ありませんか。皆さんのほうからいかがでしょうか。

○越野委員

今、個別にお話をしてもしようがないかなと思いながら伺っていたんですけども、全体としておやりになったことの結果報告なんですよね。そういう、もちろんその全体のサイクルが回っていったらその部分というのは必要なんですけれども、これはリレーションシップをやるのにこうやりましたという話だけでも、僕はそっちの比重よりも、むしろこれから先の計画に対してどういうアイデアがあるのかとか、どういうアイデアを出してほしいのかという、その辺のところがとても大事なんではないかな。

今、尾花委員がおっしゃったようなこともすごく大事で、これは僕ら、建築業界もそうですけれども、設計が始まっちゃったら意見なんか入りませんよ。ある程度予算的なものも含まれてくるわけだから。むしろ要するに、今そういうことでワークショップ的なものをやりながら設計していくなんていうやり方がありますがけれども、ですから今、尾花委員がおっしゃったような商店街だったらこういうようなものを取りつけられますよとか、それから、企業でもこういう協力ができますよとか、何か街でもこういうことができますよとかというような意見をいただきながら、それとそのフラッグが何枚作らなきゃいけないかというような予算との整合性とか、お金が潤沢にあるわけじゃないんだろうと思います

し、例えば、それが何か民間でも協力して枚数を増やすことができないのかとか、そういう話になっていって設計に移っていくんであって、基本的に、やっぱりどんどん時間が短くなっていく中でもって、ものすごく後手という感じがするんですね。

これは実は北区だけじゃなくて、我々商工会議所のほうには各区の活動状況と区と支部との連携状況という資料が来ているんだけど、これは各区やっぱりみんな、根本的には東京都が非常に何かいろんなことがあってきちんとした発信ができていない、おりにきていないということが原因だと思いますけれども、非常にその辺が遅れているような気がするんですね。

ですから、前のことは言ってもしょうがないし、それなりの事業はやられていると思うんですけども、ぜひ、この後に今後のスケジュールという項目がありますけれども、どういってお話があるかわかりませんが、もう少しこういう事業をやっていくんだということをお示しいただきながら、個々にこの中からいろんな意見を吸い上げていくというふうにしていだけないかなというふうに思います。

せっかくセクションとしては一生懸命おやりになられているのに、そうじゃないと、さつき係長おっしゃられたように、来年度になりましたら町会や商店街や各団体とも連携をしていくと、そのときにやることが決まっていこれをやれというよりは、こんなことを構想しているんだけど、何か知恵を出してらえますかというふうに言っていたほうが我々としては協力がしやすいんじゃないかなというふうに思います。

○齊藤座長

事務局、いかがでしょうか。

○事務局（石丸課長）

まさにおっしゃるとおりでございます。今回のこのリレーションシップ協議会は、私どものご報告が主になってしまったんですけども、後ほどスケジュールのところでもご説明いたしますけれども、今後の各行事に当たりましては、このリレーションシップ協議会を中心とした皆様方からのご意見を頂戴しながら、協力して進めていきたいなというふう

に思っています。

先ほど、最初の議題で説明いたしました1000日前の記念イベントでございますけれども、FES+というような青年会議所のメンバーの中から非常に多大なご協力をいただきましたので、あれも越野委員の前回のご発言を受けて、私どもとしてもいろいろ各方面から協力を得まして、こういったイベントを進めるというふうに考えたところでございますので、今後とも越野委員のおっしゃるようにこの場で、構想段階でなるべくテーマを出してご意見を吸い上げていければいいのかなというふうに思っておりますので、今後ともご協力のほどよろしく願いいたします。

○齊藤座長

越野委員の意見、ごもっともだなというふうに感じています。そういう意味では、私は座長をやっておりますので私の責任でもあるんですけども、場合によっては今の発言なんかでもあったとおり、少しやっぱりこういう会議体、いわゆるシャンシャン会形式ではなくて、少しワークショップで皆さんの意見が吸い上げられるような、そういう会議体も少し考えていただいてもいいかもしれませんね。それを検討いただきたいなというふうに思います。

そのほか何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

○兼松委員

こちらの会議に参加させていただいているので、事務局の方に個別にちょっとご相談すればいいかなと思っていたんですけども、せっかくなのでこの場で。

友人がちょっとボランティアで参加して、他区なんですけれども、スポーツ能力発見協会という一般社団法人がやっているものがあるんですけども、子どもたちがどんなふうにスポーツ能力が測定できるかというのをしたというのがありまして、それをオリンピック・パラリンピックを盛り上げていくので北区もできたらいいなと思ったのがあるんですね。ホームページとかはあるんですけども、ごめんさない、今日ちょっと特に資料とかをお持ちしてというものではないんですが、それには渋谷区でやったと言っていたと思う

んですけども、お願いをしたわけじゃなかったそうなんです、SMAPの草彥君とかも参加してくれてすごい手伝ってくれて、その会場自体がすごい盛り上がっていたと参加していた友達が言っていたので、北区がそんな芸能人の方が来てと、ちょっとあれかもしれないんですけども、何か子どもたちがスポーツに携わって、これは大人も測定したりもできるそうなんですけれども、そういったことも何かやってオリンピックにつなげていけたらいいのかなと思って、よろしくお願いします。

○事務局（石丸課長）

それでは、後ほどその協会の詳しいデータなんかをいただければ、私どものほうでも、調べさせていただきます。ホームページか何かおありなんですか。

○兼松委員

そうです、はい。

○事務局（石丸課長）

ちょっと研究してみたいと思いますので、ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございます。

○齊藤座長

今の中身は、企業ではJALが積極的にやっていますね。ネクストアスリートプロジェクトということで、子どもたち中心に測定して、あなたにはこういう種目がありますよとかということで動機づけをして、次のアスリートを育てていこうというのでやっていますので、体育系の大学とうまく、JALはたしか早稲田大学あたりと絡んでいたと思いますけれども、場合によっては東洋大学にお話、北区のほうからいただければ、包括協定も結んでいますし、そういうことも可能かなと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○越野委員

今みたいなお話はすごく貴重だと思うんですね。それで、僕はオリパラのこのご担当の課にぜひお願いしたいのは、今みたいなお話があったときに、オリパラの中だけで何がで

きるかじゃなくて、例えば体育協会では北区体育祭のときに、要するに体力測定みたいなものはずっと伝統的にやっているわけですよ。そうすると、そこにそれなりの人員を割いてやるということをやっていますよね。例えば、そういうときに今、ご発言のあった方のようなものが一緒になって何かやれないかとか、だから既存のものにどうこうくっつけていって、新しい結合をもってよりいい形にできるかとか、それをそういう渋谷でもやられた、タレントが来る、来ないは別にしても、すごく注目されたことをやるというのをリリースをかけることによってプレスからの注目を浴びるとかという回転にしていくとか、そういうことをやっぱりハブになる、ハブの要するに中心になって考えていただくことがまさにリレーションシップなんだろうと思うんですね。

個々に知恵はみんな持っているはずなんですよ。だけどそれがどうしたら広がりを持った形でできるかというのが、なかなかやりきれないところがあると思うんですね。商店街でもこういう商店街の何とか事業みたいなものがあるんだよといったときに、何かこれ、オリンピックの盛り上げにつなげられないかな、自分たちで勝手にやっちゃうと何か著作権とかいろんなことをやってちょっとやばそうなんだよなど、そういうときに何かと何かを結びつけていただくとか、何かそういうふうにしてやっていただいたほうがある意味、新たな予算がなくてもできるということが結構あるんじゃないかなというふうに思うんですけどもね。

○事務局（石丸課長）

貴重なご意見ありがとうございました。まさにおっしゃるとおりでございまして、このメンバーさんも含めていろんな民間の知恵を拝借しながら、私どもがハブとなって事業を広げていかなきゃいけないなというふうに思っているところでございます。

今、越野委員からもご指摘ありましたけれども、著作権云々でなかなか民間で動きにくい部分も確かにあるんですね。今、後ろにありますのぼりも、新たな花火というテーマで組織委員会のほうから送ってきたんですけれども、これもいろいろ使うに当たって条件があつたりして厳しいところがありますので、そういった問題も、私どもも横の連携をと

りながら一つずつ解決していきまして、この2年間で何ができるかということを検討させていただきますので、貴重なご意見ありがとうございます。

○齊藤座長

では、ほかいかがでしょうか。

特になければ、議題の（5）はこれで終了して、4番の今後のスケジュールに移りたいと思います。いかがでしょうか、よろしいですか。

では、次の4番の今後のスケジュールのほうに移りたいと思います。事務局のほう、説明をお願いいたします。

○事務局（石丸課長）

事務局です。すみません、資料はございませんので、口頭で説明させていただきます。

まず、このリレーションシップ協議会でございますけれども、次回の開催予定は来年の6月を予定しております。年に2回ということで計画しているところなんですけれども、先ほど越野委員からお申し出がありましたように、年に2回ですとなかなか皆様方の意見を吸収するというよりも報告が主になってしまうという、後手後手に回るようなところもございますので、適宜皆さんでお集まりいただかなくても、私どものほうから委員の皆様様に情報を提供したり、また、皆様方からいろいろお知恵をいただいたりというような、そういうメールなり文書でなりのやりとりということも今後検討していきまして、皆様方との情報連絡というのを密にしていければなということもちょっと考えております。一応、会議体としては来年の6月を予定しているところでございます。

それから、来年の7月には、今度はオリンピックの2年前のイベントというようなところも考えております。これも今申し上げましたように、6月に会議を開いて7月にこれやりますよという、そういう流れにならないように、できれば皆様方のご意見も頂戴しつつ、この2年前のイベント、全く同じものをやってもちょっとインパクトが薄いのかと思いますので、ちょっと切り口を変えた形でやっていければなというふうに考えているところで

ございます。

それと、まだ時期はわかりませんが、この6月、7月の前後だと思いますけれども、来年の夏に組織委員会からボランティアの募集についての概要といいますか、要項といいますか、そういったものが発表される予定になっております。齊藤座長が先ほどおっしゃられたように、数万単位のボランティアを集めるということですが、2つボランティアの体系がありまして、まずは大会ボランティアということで、大会運営そのもののボランティアでございます。これは、会場の案内ですとか、それから通訳のボランティアですとか、それから運転手のボランティア、それぞれいろいろな分野があるかと思えますけれども、直接大会にかかわる大会ボランティア、それともう一つは都市ボランティアということで、例えば空港ですとか駅ですとか、そういったところで外国から来た人のおもてなしをするですとか、道案内するですとか、そういったような形のボランティア、大きく分けて2つのボランティアが行える、募集されるという計画になっております。

まだ規模等について正確には発表されておられませんけれども、数万人単位の大規模なボランティアの募集というようになると思えますけれども、齊藤座長がおっしゃられたように、多分何十万人もの方の申込みがあるのかなというふうに思っております。

このボランティアにつきましては、また情報がわかり次第、皆様方にお知らせできればなというふうに思っております。

それと、ちょっと先の話になりますけれども、再来年の3月ですか、今度は500日前ということになりますので、ちょっと先なのでまだ具体的なことは決まっていなんでしょうけれども、この500日前にも何らかのイベントを開催していきたいなというふうに思っているところでございます。

雑駁ですが、大きなところのスケジュールについてのご説明でした。よろしくお願いたします。

○齊藤座長

何か質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

特になければ閉会ということになります、7時から始まりまして1時間ちょっとという時間でしたが、お疲れさまでございました。

先ほどオリパラに向けてなかなか進まない状況にあるよというような話がありましたが、実は私の教え子も2人ほど組織委員会のほうにスタッフでいるんですが、かなりやっばりどたばたしているんですね。そんな中、いろんな話聞きますけれども、ここ北区は会場にはなっていないが、そういういわゆる気運醸成の中ではまずまず進んでいるほうかなというふうには私自身は見ております。

実は、今、私の学部があるのは朝霞市なんですけれども、朝霞は射撃の会場に指定されていて、会場ではあるんですが、実はリレーションシップ会議が開かれたのはつい1週間ぐらい前に第1回目がやっと始まったというところですので、そういう意味からいけば、そこそこ進んでいるかなというふうには思います。

いずれにしても、先ほど皆さん協力ということがありましたけれども、そうですね、実質的な協力、そういうことが必要になってくると思うんですね。それぞれできることではなくて、何かつながってできるようなことというのがあるんですね、それぞれではなくて。そういう意味でこの会議体の意義があるのかなというふうに感じておりますので、どうぞ活用いただければというふうに思います。

では、長い時間お疲れさまでございました。これで第3回のリレーションシップ協議会終了したいと思います。ありがとうございます。

午後8時13分閉会